YCU 春季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	**M.K**	**学部・学科**	**国際商学部国際商学科**
学 年	**1**	**派遣国**	**ニュージーランド**
派遣大学	**リンカーン大学**		
プログラム名	**English for Academic Purposes (EAP) Programme**		
期 間	**26 年 2 月 16 日～25 年 3 月 12 日**		

（1）授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)
（可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい）

初日にオリエンテーションが行われ、その中で 45 分の Reading と Writing の試験があった。その試験の結果を基に 3 つのクラスに振り分けられた。

授業は、大きく 4 つの科目があった。Writing, Reading, Listening & Speaking, Research Skill に分かれていた。基本的に IELTS を意識している授業が展開されていた。

Writing は Essay の書き方と Graph Writing の書き方を学んだ。授業を通して、Vocabulary や Grammar を学んだ。Writing のテーマによって使う接続詞が異なることや、Introduction, Body, Conclusion という文構造を意識することも学んだ。課題には、Writing を出されたテーマに対して完成させてくるというのがあり、次の日に先生が添削してくれて、どのように書くのが自然な英語なのかを知ることができた。ただ、他の科目の宿題が難しいときや、次の日がテストの日の課題は少ないもしくはないことが多かった。

Reading は毎日 Speed Reading を行って、文章を読む速度と文章読解力を鍛えた。さらに、毎週決められたテーマの Article を読む課題が出て、そのテーマについて詳しくしれただけでなく、気候変動など現在問題となっている課題の解決策を考えることもあった。また、授業内や Article を読むうえで出てきたわからない単語を調べて Vocabulary Sheet に書くという課題もあった。

Listening & Speaking の授業では、とにかく自分で話すことが多かった。話すことに焦点を置いている授業だったので、いきなり指されることもあった。さらに、この授業では、ニュージーランドの人が何を意識して会話をしているのかを学ぶこともできた。具体的に、ニュージーランドの人は日本と同じく相手を思いやりながら会話をすることが多く、何かを断る場合も遠回しに断ることが多いと学んだ。もちろん、Listening の能力を高める演習もあって、音声を聞いてディクテーションをして、そこで学んだことをペアと共有することもあった。課題にも、その週のテーマに合わせた動画を視聴して、ワークシートに記入するものがあった。また、最終週には Presentation もあり、授業では全く準備する時間が設けられていなかったので、大変だった。

Research Skill では、最終的に 3 つのウェブサイトを参考にしてニュージーランドの Endangered Species についての 450 単語以上のレポートを書くというものだった。この授業で特に強調されていたのが、文章の Paraphrase で、Writing の授業でもよく言われた

ことだが、ウェブサイトから引用する際に、自分の言葉できちんと書き換えられているかに焦点が当てられていた。さらに、Writing でも学んだ文構造を踏まえながら論理的な文章を書くことも学んだので、今後英語のレポートを書くときに活かせる内容だった。

この他に、Writing, Reading のテストが 2 回ずつ行われた。普段の授業で学んでいる内容が出たので、解きやすくはあったが、比較的難しい内容だった。

（2）授業を受けてどのような知識等が得られたか。（500 字程度）

先述したことと重なる部分が多いが、私が授業を通して得た知識として挙げられるのは、Vocabulary, Essay Structure, Pronunciation, そして英語の勉強方法だと思う。全ての科目で Vocabulary を習得し、Listening & Speaking の授業では特に Pronunciation を教わった。日本語が話せる先生だったので、日本人が苦手なＬとＲの発音についても詳しく教えてくださり、非常に有益であった。また、今まで英検などで私が書いてきた Essay Structure は IELTS ではあまり使われていないことや IELTS の Writing 問題には難易度の高い質問もあることを学び、今後自分が何を意識して、何を中心に学んでいけばよいのかも理解することができた。

さらに、正直に言うと、ニュージーランドのことをあまり知らないまま渡航したので、首都やマオリ語、文化、農作物、動物、日本とニュージーランドの貿易など多岐に渡ることを知ることができたので大変興味深かった。

また、世界中で注目されている問題（ICT、地球温暖化、遺伝子組み換え、Social Interaction など）に関しても英語の文献を読んで自然と理解を深めることができた。ただ、英語の学び方や、英文を読むだけではなく、長い目で世界中の問題について知ることができ、良い経験になった。

日本でよく行われる、想像されうる授業は真面目に学生が先生の話を聞いている授業だが、ここでは手を挙げなくとも生徒たちが次々と発言し質問するので授業もテンポよく、文化の違いも知ることができた。

（3）授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。（400 字程度）

私は PE を入学前に習得済みで、大学 1 年の授業でも言語科目を取らず、約 1 年ぶりの英語の勉強だった。なので、EAP の授業を受ける前、久しぶりの英語で、授業についていけるのかの不安が大きく、はじめは緊張していた。しかし、先生方はわかりやすく、ジェスチャーも加えながら説明してくださるので、勉強に安心して取り組むことができた。さらに、日本人の留学生も多く、わからないことがあれば、質問しやすい環境だった。また、放課後や休日には現地でできた友達とごはんを食べにいったり、ジムに行ったりもした。授業を受け終わった今、留学中は遊びも勉強もしっかりやることが重要であると思っている。せっかく、留学に行く機会をもらったなら、それなりの成果や思い出を残しておくことが後悔のない選択だと思った。1 か月で爆発的に英語力を伸ばすことは難しいが、積極的に先生やホストファミリーとコミュニケーションを取ることや、英語の勉強方法を身に付けることはできるので、実践してみるといいなと思った。今回、英語圏に足を踏み入れて、海外に行くハードルが下がったので、積極的に海外に行ってみたいと思っている。

（4）今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回、ニュージーランドに留学して現地の文化や生活について知り、さらには実際に経験することができた。日本で自分が今まで学んでいた英語が伝わると嬉しい気持ちがある反面、発音が悪くてうまく伝わらないこともあり、自分の英語力不足を痛感した。学校の先生やホストファミリーはゆっくり会話してくれることが多かったが、観光している際に店員さんの話すことが聞きとれなかったり、アクティビティの説明を耳で聞き取れなかったりしたこともあった。日本に戻っても、ここで学んだ英語や英語の勉強方法を実践して、次海外に渡航したときにスラスラと英語を話せるようになりたいと考えている。今回、留学をして、自分の英語の課題（発音と話したいことを英語で話せないこと）を見つけたので、これを克服できるように勉強を続けていきたいし、積極的に英語の資格を取っていきたい。

YCU 春季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	**A.Y**	**学部・学科**	**国際商学部・国際商学科**
学 年	**1 年**	**派遣国**	**ニュージーランド**
派遣大学	**リンカーン大学**		
プログラム名	**春季留学プログラム**		
期 間	**2026 年　2 月　14 日～　2026 年　3 月　14 日**		

（1）授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)
（可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい）

授業は、ライティング、リーディング、リスニング＆スピーキングの 4 技能に加え、リサーチスキルの授業が行われた。ライティングの授業では主にエッセイ作成に取り組み、3 週目にはグラフから読み取れる情報を文章化するグラフライティングも行った。エッセイの練習では、文章構造や有用な語彙、文法について学び、グラフライティングにおいても構成や注意点を学習した。また、ほぼ毎回英作文の宿題が課され、提出した文章には毎回丁寧なフィードバックが与えられた。リーディングの授業では、スピードリーディングを中心に行い、本文を素早く読んだ後、本文を見ずに設問に答える練習を繰り返した。さらに、文章の要約やパラフレーズの練習にも取り組んだ。授業は ICT や Human Impact など週ごとにテーマが設定され、それに関連する英文を読み、要約する課題が毎週出された。また、文章を読みながら選択式の問題に解答する課題も常に出されていた。リスニング＆スピーキングの授業では、各週のテーマに関する YouTube 動画を視聴し、指定されたプリントを完成させる課題があった。4 週目にはプレゼンテーションが行われ、1～3 週目はその準備期間として、スライド作成方法の動画視聴や、発表動画をもとに良い点や改善点を話し合う活動を行った。リサーチスキルの授業では、ニュージーランドの絶滅危惧種について調査し、レポートを作成した。複数のウェブサイトを参照し、約 500 語の英文レポートにまとめる課題に取り組んだ。

（2）授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

4 週間の授業を通して、英語の 4 技能をバランスよく向上させることができた。ライティングでは、エッセイの基本構造やグラフの説明方法を学び、論理的に文章を書く力が身についた。また、毎回の課題のフィードバックを通して自分の文法や語彙の弱点を理解し、改善する力も得られた。リーディングでは、スピードリーディングや要約、パラフレーズの練習を通して、文章の内容を素早く正確に把握する力が向上したと感じている。さらに、リスニング＆スピーキングの授業では、動画を用いた学習やプレゼンテーションを通して、英語を聞き取る力や自分の意見を分かりやすく伝える力を養うことができた。加えて、リサーチスキルの授業では、複数の資料をもとに情報を整理し、レポートとしてまとめる力を身につけることができた。また、これらの学習を通して、自分の英語力の課題を客観的に把握することができた。特に、語彙力や表現の幅の不足を実感し、より多くの表現を身につける必要性を感じた。さらに、限られた時間の中で課題に取り組む経験を通して、効率的に学習を進める力を身につけることができた。

（3）授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、英語をほとんど勉強していなかったため、授業についていけるか不安を感じていた。特にスピーキングはこれまでほとんど経験がなく、自分の伝えたいことをすぐに英語で表現できないことに強い不安があった。実際、授業の初めの頃は、英語を一度頭の中で組み立ててから話していたため、一文話すのにも時間がかかっていた。しかし、授業を重ねる中で徐々に英語に慣れ、最後には完璧な文章ではなくても、自分の思ったことをすぐに伝えられるようになった。特に、ペアワークやプレゼンテーションの準備を通して、相手に伝えることを意識するようになり、自分から発言する機会も増えていった。この経験を通して、英語で話すことへの抵抗感が減り、積極的にコミュニケーションを取ろうとする気持ちが強くなった。今後は、さらに語彙力や表現力を高め、よりスムーズに自分の考えを伝えられるようになりたいと考えている。

（4）今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の授業で学んだことは、今後の英語の授業や普段の学習にしっかり生かしていきたいと思う。特にライティングで学んだ文章の構成や、リーディングで行った要約やパラフレーズは、レポートを書くときにも役立てていきたい。また、スピーキングについては、授業を通して少し自信がついたので、これからもできるだけ英語で話す機会を増やしていきたいと思う。例えば、簡単な内容でも英語で考えてみたり、授業中もなるべく発言するようにしたい。さらに、自分の課題だと感じた語彙力の不足を改善するために、単語や表現を日頃から少しずつ覚えていきたい。今回の経験を無駄にせず、継続して学習に取り組んでいきたい。

YCU 春季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	**T.A**	**学部・学科**	**国際教養学部・国際教養学科**
学 年	**1 年**	**派遣国**	**ニュージーランド**
派遣大学	**リンカーン大学**		
プログラム名	**春季短期語学研修(EAP)**		
期 間	**2026 年 2 月 14 日～2026 年 3 月 14 日**		

（1）授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)
（可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい）

リンカーン大学の EAP の授業は、週 5 日 9:00 から行われており、1 日あたり 3 コマから 6 コマある。 1 コマ 50 分授業で日によって時間割が異なり、「Writing」、「Reading」、「Listening & Speaking」、「Research Skill 1」という科目がある。

「Writing」は基本的な文構造を確認し、よりアカデミックで自然な文章を書けるように指導を受けた。先生が宿題で書いた文章や授業中に書いた文章をすぐに採点してくださり、フィードバックも個別に行ってくださったのでより効率的に学ぶことができた。

「Reading」では毎時間速読などを行い、文章を早く正確に読めるようにするための指導を受けた。文章を読むには語彙力を上げる必要があるので週ごとに授業で学んだ語句や日常生活で学んだ語句をまとめるリストの作成も行った。

「Listening & Speaking」では、自然な会話をできるように即答を意識させるような指導を受けた。実際にボールを投げてテンポよく会話もボールもキャチボールできるかという演習もしたりしていた。日本での英語教育では文構造を深く考えて会話が不自然になってしまうが、リンカーン大学ではその面ではより日常的な会話の練習をすることができた。

「Research Skill 1」ではニュージーランドの絶滅危惧種についてネットで調べ、アウトラインを作り、450 から 550wards のレポートを書くという作業を個人で行った。「Writing」、「Reading」、「Listening & Speaking」は週によって授業のテーマがあり、1 週目は「ICT について」、2 週目は「Human Inpact について」、3 週目は「Horticulture について」、4 週目は「Social Interactions について」の授業を受けた。

中でも私が 1 番印象に残った授業は「Listening & Speaking」である。上記で説明した授業はすべて他の日本の大学(金沢大学、関東学院大学、順天堂大学、奈良女子大学、北海道大学など)から来た学生及び今後リンカーン大学で学ぶ日本人や外国人が受けていた。そのため横浜市立大学での英語と比べてより幅広い考え方や経験をした人が多くいた。そのためスピーキングの練習で話す際に相手の経験やエピソードを聞くことができたのだ。

（２）授業を受けてどのような知識等が得られたか。（500 字程度）

私が授業を受けて特に新たな学びを得たと感じた授業は「Writing」である。「Writing」の授業では複数回文章を書いたが、結論の書き方で多く使われる「In conclusion,」だけではなく他の表現も使えることを教わった。例えば、「In」と「名詞」の組み合わせの表現だと「In summaly,」、「To」と「動詞」の組み合わせだと「To conclude,」、「To summarise,」、「To sum up,」という表現があることを学んだ。また「Writing」はエッセイだけでなく、グラフを読み解いてどのようなことがわかるかを作文するといった多岐にわたる「Writing」を行った。どちらにも共通しているのは最初にわかることや意見を簡潔に述べて説明を後に持ってくることで、授業を受ける前よりも文構造がクリアにできるようになった。
また、次いで知識を得られたと感じた授業は「Listening & Speaking」である。この授業でニュージーランドの人との関わり方や人間性も学んだ。ニュージーランドの人々は日本人と同じように直接的な表現はあまり使わず、遠回しで物事を伝えて相手に察してもらう傾向があると学んだ。例えば、何か提案されたときに「No」と言うのではなく、「時間がないから今は大丈夫」などのように断るということだ。このようにする方がニュージーランドの会話で自然であるのだ。こういった会話の行い方についても学ぶことができた。

（３）授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。（400 字程度）

クラス分けをした中で一番上のクラスであったためか日本人だけでなく、他の国の人(中国人 2 名、インドネシア人 1 名)がいたため、ニュージーランド訛りの英語だけでなく、中国人訛りの英語やインドネシア人訛りの英語、さらに先生の中にはアメリカ英語の人もいたことから、それぞれの個性ある英語を直接 4 週間感じることができた。例えば、ニュージーランド訛りの英語はイギリス英語に近く、「Day」を「デイ」ではなく「ダイ」と発音していた。そのようなことから国によって英語の一個一個の発音が全く異なることを知り、日本でよく耳にするような英語が聞き取れるようになったり、英語のスコアが上がればそれが世界で通用すると思っていたけれど、実際は必ずしもそれは通用しないということを今回の研修で一番感じた。これまで経験していた留学は周りが全て日本人であったため、それを知ることはできていなかったので、それが今回の研修で得られた一番の世界を見る考え方の変化だった。

（４）今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。（300 字程度）

今回の研修で、同じ「英語」であっても国や人によって発音や話し方が大きく異なることを実感した。この経験を今後は、自分の英語力の伸ばし方そのものに生かしていきたい。これまではテストの点数やスコアを上げることが目標になりがちだったが、それだけでは実際のコミュニケーションには十分でないと分かった。今後は、ニュージーランド英語だけでなく、アメリカ英語やアジア圏の英語など、さまざまなアクセントの音声に積極的に触れ、聞き取る力を高めていきたい。また、自分自身も「正しい発音」にこだわりすぎるのではなく、相手に伝わる英語を意識して話すことを大切にしたい。さらに、異なる背景を持つ人と関わることを恐れず、多様な価値観に触れる姿勢を持ち続けることで、英語力だけでなく国際的な視野も広げていきたいと考える。